

第1号議案

2025年度 活動報告

第4期旭区地域福祉保健計画“きらっとあさひプラン”は、旭区  で生活しているすべての人が健康でしあわせな生活を送れるまちを目指しています。若葉台地区社会福祉協議会は、その第4期地福計画において“困ったときに声をあげられる雰囲気のあるまちづくり”を自分たちが描く地区の未来図として活動してきました。移動サロン“ほっこり”、ふれあい花壇の植栽継続、高齢者福祉活動・子育て支援・ボランティア団体への支援などを行いました。2025年度はその第4期地福計画の最終年であり、これまでの5年間のお振返りをすると共に、次年度から始まる新たな第5期若葉台地域福祉保健計画の検討・立案を若葉台地区社協は実施しました。

若葉台人口構成の大きな部分を占める団塊世代と呼ばれる方々の全てが後期高齢者の仲間入りとなりました。心豊かな元気を維持するための活動支援をしてゆくために、各自治会の見守り活動などの具体的な取り組みと併せて、地区社協賛助金募集時に寄せられた多くの意見・要望をもとに、関係団体への働きかけにより課題解決のきっかけ作りをしてきました。若葉台連合自治会、若葉台住宅管理組合協議会、若葉台まちづくりセンターをはじめ若葉台地域ケアプラザ、若葉台地区センター、認定NPO法人若葉台、NPO法人若葉台スポーツ・文化クラブ、旭区役所、横浜市社会福祉協議会、旭区社会福祉協議会などの関係組織から多くの助言・協力をいただきました。

以下、2025年度の活動報告をします。

1. みんなで取り組む社会福祉活動の推進

(1) 高齢者福祉活動

① 旭区老連若葉台支部（かがやきクラブ）への支援

かがやきクラブの地域への様々な貢献（高齢者見守り活動、赤い羽根街頭募金活動、公園等の清掃活動）や介護予防に通じる種々な活動に、地区社協として区老連若葉台支部、友愛活動へ助成金を支援しました。

(2) 子育て支援活動

① スタンプラリー（子育て・子育て支援として開催）

子育て支援スタンプラリーは子育て世帯に対して、「サロンみんなあつまれ!!」や「そらまめ」など既存の子育て支援の周知あるいは参加のきっかけになればと始めました。今年で5回目です。今回は「旭区へ引っ越してきて約1年経ちました。子どもが産まれて子どもと過ごせる場所を知れて嬉しい取り組みでした」といった意見もいただきました。

子育て支援スタンプラリーは対象の小学生から大学生までが参加し易いように7

月1日～8月31日に開催しています。施設を廻って、若葉台の魅力発見と愛着を持ってもらい、ひいては商店街の活性化を図ることが目的です。暑いさなかでの開催ですが、けがや病気の報告もなくほっとしています。多くの担い手の皆さんに支えられて活動することができありがとうございました。どちらも若葉台以外からの参加者もあり若葉台の魅力発信にもつながりました。

② 子どもの居場所づくり

いわゆる朝の小1の壁の対応を、連合自治会と一緒に  に検討し、朝 Wakka に繋げることができました。成果をあげつつ ある「ふれあい花壇」もスタッフの地道な努力で継続しています。昨年度から地域行事に子どもたちがボランティアとして参加できるよう募集の窓口にもなっています。2019年に作られた「横浜若葉台こどもみらいづくり宣言」に謳われているように、地域ぐるみでこどもたちの成長を見守り、子ども達が居場所を感じられるような取り組みを展開しました。

③ 若い世代とともに考える

若い世代の意見を聞かせても  らうため若葉台連合自治会と共催でフォーラムを開催しました。今年度は様々な活動を展開されている若い世代からの活動報告や小学生の取り組みを聞き中学生も交えたグループワークをしました。このような活動意欲のある世代の方々への応援、そして若葉台に住んでいる方々が引き続き生活したい雰囲気のある街、若葉台外にお住まいの方々には若葉台内に住みたくなる環境を整える支援をしてゆきたいと思いました。

④ その他事業への支援と協力

◆【プレイパーク】毎月の開催を支援・協力

◆【サロンみんなあつまれ!!】開催を支援・協力

(3) 障がい児・者支援活動

① 障がい児・者の居場所づくりの取り組み

当事者の皆様とのゆるやかな地域交流に寄り添いながら支援をし障がいのある人中途障がいになられた方々とリハビリを通して仲間づくりの居場所に取り組んできました。どなたでも参加できる場、新しい顔ぶれもありの地域交流の輪が広がったのだと思っています。

② 障がい児・者理解「ふれあいコーナー」

障がい児・者の日頃の活動の発表の場として 11/22(土)～11/24(日)午前中まで、住民の相互理解を深める支援の輪を広げるため、若葉台文化祭「～エジョえじょフェスタ～」に参加しました。

作品出展団体は、若葉台小中学校、若葉台特別支援学校、虹のかけはし、テクテクの会、若葉台ぶんげいざ、第二作業所、裕楽会の皆様に作品を提供していただきました

③ 地域住民とのふれあいの場

体力の向上、機能回復を目的として協力してきたふれあいの場「移動サロンほっ

こり」「裕楽会ポッチャゲーム」のチラシを各自治会理事さんが毎月掲示版に貼り参加協力してきました。

④ その他事業への支援と協力

◆〔裕楽会〕（毎月第4日曜日10：00～）開催を支援・協力

(4) 地域交流活動

① 第34回若葉台地区社会福祉協議会感謝デー開催

11月29日（土）若葉台地区センター2階ロビーで開催しました。昨年から若葉台文化祭とのコラボレーションで実施しており、またスペースの関係から学童クラブのみに参加をお願いしています。社協からはカレーライス、珈琲、ジュース、お茶に加え、若葉台特別支援学校につくっていただいたマドレーヌ、クッキーを提供し、メニューも多彩となって好評でした。学童クラブでは子供バザー品、雑貨などを提供しました。一時は食事スペースが満員になってしまいましたが、幸い天候にも恵まれていたので屋外のスペースも快適にお使いいただき、何とかしのぎました。PTAや児童のボランティアさんにもご協力いただきました。女の子たちが売り子を楽しんでやってくれる様子が印象的でした。来年は数量も見直し、この機会に地区社協をより知っていただく工夫をしたいと思います。

② 第41回 若葉台文化祭

— ～エジョえじょフェスタ～ ふれあいコーナー —

11月22日（土）～11月24日（日）

若葉台地区社協協議会として、若葉台文化祭のふれあい展示コーナーに参加しました。

障がいがあってもなくても多様な住民の相互理解を深め、地域共生社会を目指し、支援の輪を広げる目的での参加です。作品は若葉台小学校、若葉台中学校、若葉台特別支援学校、テクテクの会、裕楽会、虹のかけはし、旭区内作業所、若葉台ぶんげいざ、第2作業所わか、から提供され、展示作業にもご協力いただきましたことに感謝いたします。2日半の展示でしたがそれぞれの作品を大勢の方々に熱心にご覧いただきました。今後も地区社協は全面的に応援していきます。来場された住民の方々とのコミュニケーションの場が設けられなかったことは残念で、来年の課題です。

③ 第23回多世代交流「みんなあつまれ!!」開催

2025年5月5日（月・祝）に遊水池グラウンド（若葉台多目的広場）で開催しました。子どもから高齢者まで、孫からおばあちゃんまで、多世代の方々が参加でき、世代を超えた交流を通して、笑顔で交歓していただく場です。だるま落としや紙飛行機飛ばしなど、誰でもできる遊びもあり、多くの団体がそれぞれ創意の出し物で参加者を楽しませていました。午後には春の風が強くなり、一部破損するテントもありましたが、大過なく、ケガもなく終えることができました。

※「みんなあつまれ!!」は、年度末から開催準備に取りかかる関係で、前年度（2024年度）の理事で開催しています。

④ 「カフェわかば」ボランティア

わかば学園との地域交流「カフェわかば」は2018年10月より7年ほどの月日が流れ、ボランティアの皆様も、思い思いに当番をしていただき助かっております。6月9日(日)学園のカフェ担当責任者の先生と地区社協会長、ボランティアとの意見交換を行い、ボランティアとしての見守り方法を新たに学ぶ時間でした。

生徒さん達との交流、立ち寄ってくださる住民の方々の居場所として定着してきた様に思います。

また、2023年10月から始めた月曜カフェもボランティアだけでの交流室の営業ですが、コミュニティハウスを利用される方々が結構利用ありました。

⑤ 学校連携

今まで連携してきた横浜創英大学こども教育学部の平野ゼミとの連携を図ることは今年度できませんでした。

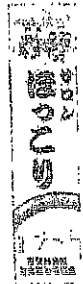
⑥ その他の事業への支援と協力

◆【若葉台を盛り上げる会】を支援・協力

(5) 見守り活動

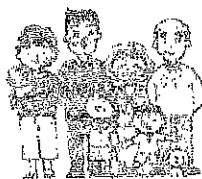
① 地域見守り活動報告会

昨年度より切り口を子ども達にして開催したところ、見守りの域を越えた報告会となり、今後はフォーラムとしてみんなで若葉台のこれからを考える場となりました。(2) ③参照) 見守り報告会の内容は、これからは「ご近助ほっこり活動情報交換会」が継承します。



② 包括的な見守り「ご近助ほっこり活動」

高齢社会の街若葉台の様子は賛助金協力のアンケートから見えてくる内容を必要に応じて支援につなげたり課題解決を各自治会・関係機関にご協力を得て地域全体で問題解決に積極的に取り組んでいる途中です。



住民自らの力で課題解決を心がけ、各自治会でのサロン等の活動から解決の道を切り開き、問題解決につなげていくため、旭区が取り組む“あなたの気づきで変化をキャッチ”「旭区ご近助ほっこり活動」の緩やかな見守りによる気づきの目を増やしていくた

めに令和8年3月1日に連合自治会と共催で各自治会の地域見守り報告会を行う。

(6) 生活困窮者支援

コロナ禍で一時的に困窮した家庭を支援してきましたが、自力で回復されたり支援機関につなげたりできましたのでこの事業は終了いたしました。

2. 福祉活動を支える活動

(1) きらっとあさひプラン（旭区地域福祉保健計画）

地域福祉保健計画は、旭区で生活・活動している“すべての人”が健康で幸せな生活を送れる街を目指して、行政はもとより住み良い街づくりに取り組んでいる関係団体と協働で地域住民が主体となって取り組む計画です。若葉台人口構成の大きな部分を占める団塊世代と呼ばれる方々の全てが後期高齢者の仲間入りとなりました。若い世代が住みたくなる若葉台を目指し、年齢を重ねた世代も住み続けやすさを維持できる地域へと進んで行ける雰囲気醸し出す街にしましょう。

挨拶運動 ～ 自然な声掛けの取組み

挨拶のできる関係

世間話のできる関係

（若葉台の地域福祉計画）

相談のできる関係



① 第4期地域福祉保健計画（令和3年度～令和7年度）から第5期地域福祉保健計画（令和8年度～令和12年度）へ

地区社協理事を中心に区役所・区社協・若葉台地域ケアプラザの支援チームの協力を得て、令和7年度は、令和3年度から実施中の第4期地福計画の振返り、次期計画の第5期地福計画の策定を行いました。ほぼ毎月第3木曜日の地区社協理事会終了後に地域福祉保健部会を開催しました。

② 具体的な取り組み

第4期計画においては、a) 移動サロンほっこの展開により、参加者の異変に気づき、素早く情報をつなぐことができています。b) 散歩中に挨拶を心がける、子どもたちが挨拶をしてくれる等、あいさつ運動は声かけのきっかけとなっている。c) ふれあい花壇を継続したことで、声をかけてくれる人、見て喜んでくれる人、人知れず水をあげてくれる人など、共感も輪が広がった。d) 地区社協だよりは、発行コストを下げることに
より隔月で発行できました。

毎週木曜日理事会終了後に検討した結果として、以下の若葉台地区第5期地域社会福祉保健計画の表題が出来上がりました。出会い ふれあい 支え合い～気軽に声をかけあい相談できるまち～。この計画は若葉台に関わる全ての人のためのものです。全ての人には、乳幼児から高齢者までの幅広い世代も人、外国籍の人、障がい児・者、若葉台に通勤・通学する人等、様々な立場や背景のある人、だれでもとの追記表現を得ることができました。第5期計画の目標を以下のように、

目標A；お互いに気にかかけあう環境をつくる、

目標B；地域のだれもが気軽に参加できる場と機会がある、

目標C；多様な住民から広く声を聞き、まちのみらいを考える、

目標D；適切な方法で、必要な人に必要な情報を届ける、

と確定できました。

心豊かな元気を維持するための活動支援をしてゆくために、多世代交流が具体的に可能な機会である（みんなあつまれ5月5日開催）も引き続き実施しました。

2025年8月31日に連合自治会と共同で若葉台地域ケアプラザにて開催した～若葉台のまちを考えるフォーラム～若葉台でワクワクドキドキしよう！を開催しました。2025年11月には地区センターで行われた若葉台文化祭においては、展示コーナーにふれあいコーナーを設け、障がいがあってもなくても地域共生社会を目指し住民の理解と相互理解を深め支援の輪を広げる目的で、地区内学校・各福祉団体から協力をいただき参加しました。さらに文化祭に合わせて地区社協感謝デーを開催しました。さらに2026年2月14日旭公会堂で行われたきらっとあさひ福祉大会において、若葉台地区の取組み事例を紹介しました。

(2) ボランティア団体への支援

地域福祉活動を実施している団体に活動資金の支援として地域福祉活動助成金を交付しました。(別表1参照)

また、助成団体を含む地域福祉活動団体と情報交換会(わかばネット)を7/12と2/21に新たなメンバーも迎えて開催いたしました。お互い興味をもって情報交換することで新しい連携も模索できた会となりました

(3) 役員会・理事会・各部会

定例役員会(第1土曜日)、理事会(第3木曜日)、福祉保健部会(第3木曜日)をほぼ予定通り開催しました。

更に、当初の予定通り賛助金募集時の意見部会を立ち上げました。

(4) 賛助金募集活動

2026年1月～3月にかけて募集活動をさせていただきました賛助金は、地区社協活動のための大切な資金となるものです。今年度も個人および団体・法人から以下の協力をいただきました。皆様から頂いた賛助金は地区社協の大きな財源となっています。皆様のご協力に心より感謝いたします。(2026年3月31日現在)

個人	:	759,650円	
団体・法人	:	171,100円	(18団体・法人)
合計	:	930,750円	

※賛助金は、募集期間を過ぎてもお届けくださる方がいらっしゃいます。その為、第2号議案収支報告書—収入の部—賛助金とは一致しないことを申し添えておきます。

(5) 賛助金募集時の意見のまとめと提言

賛助金募集時の意見部会を立ち上げ、賛助金募集時にいただいた意見をまとめ、社協以外の団体に協議いただくべき事項についてはそれぞれの団体に委ね、社協で対応できることを協議しました

(6) 助成金

新たに若葉台が抱える福祉課題に果敢にチャレンジして頂ける団体にも助成しました。

(7) 赤い羽根街頭募金協力

10月4日(土)10:00～10月5日(日)16:00までイトーヨーカドー正面側での募金活動に協力いたしました。

3. 広報活動

(1) 広報紙「社協だより」の発行（年4回の発行）

社協の活動報告の他、地域で活動しているボランティア団体の紹介・活動報告を掲載しました。また、横浜市の地域福祉保健計画と連動する形での、旭区地域福祉保健計画（きらっとあさひプラン）による第4期若葉台地区地域福祉保健計画の取り組みについて説明と報告をしました。

他に、毎回、横浜調剤薬局若葉台店のご協力をいただき、健康講座を連載中です。

(2) インターネット活用

2021年9月に立ち上げた地区社協独自のホームページ、2022年1月に開設したTwitter（のちに X ）、広く情報を発信する手段として有効ですが、なかなか充実した活用ができませんでした。

<https://www.wakabadai-chikushakyou.org/>

<https://twitter.com/chikushakyou>



(3) 助成金交付団体の広報

社協だよりに順次掲載しています。

(4) 諸団体の広報支援

今年度はできませんでした。

(5) 他媒体による情報提供

他媒体に社協活動の情報発信をしていただくことはありましたが、積極的に提供するまでには至りませんでした。

4. 研修・講演会の実施

(1) 役員・理事研修

理事会の中で、高齢者の多い若葉台がこれから抱える問題として認知症をかかえた住民の爆発的な増加が考えられるので、認知症について少しでも勉強しませんかという提案を受け、奇数月理事会の前に30分ケアプラザに協力いただいて認知症講習会を開催しました

(2) 講演会とコンサート

今年度開催できませんでした。

5. 委員会等への参加

要請された各委員会等に参加致しました。

6. その他

(1) 時計設置

前若葉台地区社協会長時代に賛助金の意見で、わかばの広場に子どもたちが遊んでも時刻が分かるようにと時計の設置が要望されていました。

設置場所の選定、費用負担などでなかなか折り合いがつかず時間がかかってしまいましたが、ようやくまちづくりセンターの協力で長年の懸案だったわかばの広場（通称じゃぶ池公園）の街灯に時計を設置することができました。辺りが薄暗くなっても街灯直下なので遊びに夢中な子ども達も見えています。若葉台地区社協に寄せられた住民みなさんからのご意見と経済的な支援の賜物と感謝しています。

別表 1 地域福祉活動助成金一覧

2025年度は以下の17団体に助成金を交付しました。

団体名	金額	活動内容
特定非営利活動法人あさひ	20,000	身体障害者等の外出時の送迎、買い物支援活動（有償）
テクテクの会	50,000	ハンディキャップのある子どもとその家族等の交流
のこのこの会	100,000	高齢者、障がい者を対象とした送迎援助活動（有償）
区老連若葉台支部	45,000	集会所を利用して活動、老人会員相互の親睦
若葉太鼓（中央学童保育）	30,000	若葉台でのイベント演奏活動
若葉台なんでも相談	20,000	電話での困りごとや悩みことの相談、声の訪問活動
若葉台プレイパーク活動運営委員会	40,000	若葉台の公園を活用して子どもの豊かな成長を支援
戦争体験を語り継ぐ若葉の会	21,000	平和学習、体験講話集の頒布、千羽鶴作成など
友愛活動部会 @5000x9部会	45,000	老人会加入者対象の見守り
サロンみんなあつまれ！！	55,000	子育て中の親子を中心とした多世代交流の場の提供
わかば子育てサポートグループ	40,000	地域の団体と力を合わせて、地域の子育てを応援
裕楽会	15,000	中途障がい者の交流の場
移動サロン「ほっこり」サポートグループ	50,000	誰でも・気軽に・近くで参加できる交流の場、移動サロン「ほっこり」の開催
若葉台もみじふれあいおたすけ隊	35,000	10年先を見据えた住民同士の助け合いの輪を広げる
認定NPO法人 若葉台	70,000	小中高生の居場所事業
若葉台縁ときずなの会	35,000	孤立化を防ぐための交流イベント
若葉台東ふれあいサロン	20,000	地域の皆さんが心身ともに健康な生活を送れるためのコミュニケーションの場を設ける
合計	691,000	

別表2 わかばネット構成団体

団体名	活動内容
地域福祉活動助成金を受けている団体	上 記
縁ときずなの会	若葉台や近隣の人々の交流を促進して孤立化をふせぐとともに、若葉台の活性化のために年に3～4回交流イベントを開催

2026年度 活動計画（案）

若葉台地区社協は 若葉台にお住まいの方々が安心安全に自分らしく生活できる福祉環境の向上に努めてまいります。

多世代交流を目指す“みんなあつまれ”は、引き続き5月5日に開催を予定しています。前年度からの課題である中高校生への積極的な呼びかけを検討しています。小中高校生からも発案が沸き上がってくることも願っています。また、新たな若年層参加を引き起こす企画を考えたい。

2026年夏頃に“若葉台のまちを考えるフォーラム”を連合自治会と共同開催することを考えています。子ども達の意見、活動している若い世代の考え、学校の先生方からの提案などをいただくとともにそのご意見を具体化してゆける雰囲気を出していくことを目指します。子育てしている世代が若葉台に住みたくなる環境をどうすればそうなるかを議論したい。近隣の大都市（東京）は非常に大きな経済規模を誇っており、その手厚い子育て支援とは比べることはいささか無理がある。そこに住んでいる人たちの福祉協力レベルで選んでもらうしかないのか。

お一人で若葉台にお住まいの方々ができるだけ気軽に戸外へ出掛ける機会を増やす企画を住民の皆さんと一緒に考案できることを期待しています。特に独居高齢者が自宅から出る機会をどうすれば生まれるのか一緒に考えませんか。特に高齢者が何に興味を示すのか、興味対象となる企画は何なのかを知りたいと思います。議論する機会を設定したいと考えていますので、ぜひお出かけください。体力のある方にはスポーツを、少し体力に自信が無くなってきた方には文化活動などへの参加を、またその逆も呼び掛けたいです。個人が興味持てそうな活動支援や参加しやすい雰囲気づくりを目指します。日頃使っていない方々にもスマホにも少しずつ触れる機会を外に出るチャンスと捉えていただくために、地区社協は高齢者向けサロンの開催応援や福祉団体などへの支援を行うとともに、デジタル技術向上に向けてスマホ講習会などへの応援をします。

連合自治会や若葉台で活動している多くの諸団体と連携し行政関係とも意見交換したいと思います。高齢者や障がい児・者そして子育てへの支援を進めて行きながら、その活動を知っていただくために、地区センターで行われる予定の若葉台文化祭における展示コーナー・ふれあいコーナーの開設、さらに文化祭に合わせて地区社協感謝デーの企画を検討しています。若葉台小学校、中学校、特別支援学校やそのPTA、ボランティアらの協力をぜひお願いしたい。

各自治会の見守り活動などの具体的な取り組みと併せて、地区社協賛助金募集時に寄せられている意見・要望をもとに、関係団体への働きかけにより課題解決のきっかけ作りをしてゆきます。

2026年度は第5期若葉台地域福祉保健計画の初年度です。出会い ふれあい 支え合いを合言葉にして、気軽に声をかけあい相談できるまちを目指しましょう。

1. みんなで取り組む社会福祉活動の推進

(1) 高齢者福祉活動

① 老人クラブ（かがやきクラブ）への支援

かがやきクラブの地域への様々な貢献（高齢者見守り活動、子ども達の見守り、赤い羽根街頭募金活動、公園等の清掃活動）や介護予防に通じる種々な活動に、地区社協としても支援していきます。

(2) 子育て支援活動

① スタンプラリー（子育て・子育て支援として開催）

対象者の減少に伴い参加者も減少傾向にありますが、例年通り未就学児を持つ子育て世帯を対象に子育て支援スタンプラリーを、小・中・高・大生をターゲットに子育て支援スタンプラリーを開催する予定です。少しずつ浸透し、楽しみにしてくれるようになりつつあります。若い世代に若葉台を知ってもらい、若い世代による若葉台の魅力発信につながるよう支援します。

② 朝 Wakka

若葉台連合自治会、認定 NPO 法人若葉台と若葉台地区社会協議会が協働プロジェクトとして、保護者達が出勤時間等で忙しい朝の時間帯（7時～8時）に子ども達が若葉台中央にある Wakka に来てもらえれば、ボランティアが約1時間見守るプロジェクトを実施してゆきます。居住している住居の集会室等にての朝の子ども達の見守りを含めて、子ども達の朝 Wakka 参加応募、極く短時間の見守りボランティアの増加も期待しています。

③ 若い世代のボランティアの窓口

子育て中の世代が若葉台に来たくなるきっかけはどのようにしたら生まれるか、どのような仕組みがあれば若葉台移住の大きな波がおこるのかを今年度も追求して行きたい。現役世代にとって都合の良い日時に地域のための協働作業をしたいので、ぜひ参加合流をお願いします。そのための一歩として、地域のイベントのボランティア募集の窓口を今年度も実施します。

④ 子どもの居場所づくり

子育て中の若い世代家族が若葉台に移住してくれば、地域平均年齢も下がり、地域活性化も期待できる。近隣の大都会との経済力を縮めるのは地域が直ちに実施できとは思われない。まずは、安心安全な朝の子ども達の居場所を構築してゆきます。「横浜若葉台こどもみらいづくり宣言」で謳われている「こどもたちの声で「にぎわうまち」の実現を目指します。若葉台近隣で来年開催予定のゲーリンエキスポも刺激剤にして、華やかな草花にも恵まれいりどり豊かな“ふれあい花壇”も継続して進めます。

⑤ フォーラムー若い世代とともに考える

連合自治会などと協働でフォーラムを開催し、子育て世代はもちろん子ども連や学校教員や地域の在り方に関心のある地域の方々と一緒に議論してゆきます。若葉台小学校・若葉台中学校・霧ヶ丘高校・墨槌高校・東洋英和女子大・横浜創英大学との連携をさらに進めることで、若い世代との意見交換をする機会を増やしてゆきます。現在、若葉台で生活している子育て世代への支援を行い、如何に若葉台が子育てに適したまちであるかを議論しましょう。

(3) 障がい児・者支援活動

① 障がい児・者の居場所づくりの取り組み

当事者の皆様とのゆるやかな地域交流に寄り添いながら支援をし、どなたでも参加できる場、新しい顔ぶれもありの地域交流の輪を広げていきます

② 障がい児・者理解「ふれあいコーナー」

若葉台における障がい児・者理解の場として、障がい児・者の日頃の活動の発表の場として、昨年同様若葉台文化祭「～エジョえじょフェスタ～」に参加する。

③ 地域住民とのふれあいの場

体力の向上、機能回復を目的として協力してきたふれあいの場「移動サロンほっこり」「裕楽会ポッチャゲーム」のチラシを各自治会理事さんが毎月掲示板に貼り参加協力を継続します。

④ その他事業への支援と協力

◆【障害者サポート部会】参加協力していきます。

(4) 地域交流活動

① 第35回若葉台地区社会福祉協議会感謝デー開催

今年度も若葉台文化祭とのコラボレーションでの開催を予定しています。若葉台の住民のみなさまに、感謝の気持ちを込めて楽しんでいただけるよう工夫して開催します。

② 第23回多世代交流「みんなあつまれ!!」開催

遊水池グラウンド（若葉台多目的広場）いっぱいに参加団体が遊び場を広げて、子どもから高齢者までの多世代のかたをお待ちします。2026年5月5日（火・こどもの日）に開催します。

※「みんなあつまれ!!」は、年度末から開催準備に取りかかるため、前年度（2025年度）の理事で開催しています。

③ 「カフェわかば」ボランティア

わかば学園地域交流室にて「カフェわかば」運営を見守るボランティア活動の募集も随時受付けて多くの皆様に親しんでいただけるよう継続していきます。また、2023年5月よりボランティアのみで月曜日営業も開始し地域住民の居場所として利用してもらいたく開催していきます。

④ 学校連携

創英大学との連携を復活継続できるよう取り組みます。

⑤ その他の事業への支援と協力

◆【若葉台を盛り上げる会】を支援・協力していきます。

(5) 見守り活動

① 地域見守り活動報告会

連合福祉地域部と共催で開催します。

② 包括的な見守り活動「ご近助ほっこり活動」

地域社会からの孤立を防ぎ、様々な困り事を早期に発見し、問題解決につなげていくための新しい包括的な見守りの仕組み「ご近助ほっこり活動」を若葉台見守り活動として各自治会と一緒に見守り報告会を継続していく。地区全体で問題解決に引き続き取り組んで参ります。



2. 福祉活動を支える活動

(1) きらっとあさひプラン（旭区地域福祉保健計画）

「第5期旭区地域福祉保健計画」（2026年度～2030年度）が策定されました。第4期の取り組みの成果を基に関係組織と共に、若葉台に関わる全ての人が安心して自分らしく暮らせるよう「出会い、ふれあい、支え合い」を合言葉に「気軽に声をかけあい相談できるまち」を目指します。（詳しくは各戸配付されましたリーフレット「第5期きらっとあさひプラン」をご覧ください）。

(2) ボランティア団体への支援

見守り活動をはじめとした地域福祉活動を実施している団体に対する支援を継続していきます。また、支援団体とは年2回の情報交換会「わかばネット」を開催します。さらに今まで地区社協とつながりのなかったボランティア団体にも交流の輪を広げてまいります。

(3) 賛助金募集活動

地区社協活動のための大切な資金となるものです。今年度も、地域の皆さまには2027年1月に、団体・法人の皆さまには2～3月に賛助会費のお願いを計画しています。

(4) 助成金

2026年度もボランティア団体、当事者団体等へ助成いたします。新たに若葉台が抱える福祉課題に果敢にチャレンジして頂ける団体の発掘を目指します。

(5) 赤い羽根街頭募金協力

2026年度は10月3日（土）～10月4日（日）実施協力予定です。

3. 広報活動

(1) 広報紙「社協だより」の発行（年4回の発行予定）

社協の活動を中心に、若葉台で活動しているボランティア団体の紹介及び活動の様子をお知らせします。また地域のニーズに合った福祉を実現するための情報を提供します。

(2) インターネット活用

地区社協の目指すところの地域包括福祉を実現するための様々な情報を、2021年9月に立ち上げた地区社協独自のホームページの充実を図って提供します。また、2022年1月に開設したX(Twitter)での情報発信にも務めます。

HP



<https://www.wakabadai-chikushakyou.org/>

X



<https://x.com/chikushakyou>

(3) 助成金交付団体及び諸団体の広報支援

助成金を交付しているボランティア団体、当事者団体等の活動を「社協だより」等で広く周知し、活動内容の共有化を図って、活動内容のさらなる充実を後押しします。

(4) 他媒体による情報提供

昨年に続き「連合自治会ブログ」、「みんなの若葉台」、「若葉だい家族」、「わかまちインフォメーション」等へタイムリーな情報提供をしていきます。

4. 役員会・理事会・部会等

定例役員会（第1土曜日）、理事会（第3木曜日）、福祉保健部会（第3木曜日）、賛助金募集時の意見部会、認知症講習を実施予定です。

5. 委員会等への参加

地域の福祉団体等と連携し福祉の充実を図るため、また、住みよいまちづくりをめざして2025年度と同様に委員会等に参加してまいります。

6. その他

2026年度の若葉台地区社協定期総会は第40回を迎えることになりました。そこで、次世代に地区社協を引き継ぐために40回の節目に何をなすべきかを考えましょう。

2025年度 収支報告書

期間 自:2025年4月1日～至:2026年3月31日

I. 一般会計

(単位:円)

収入の部

科 目	予算額(A)	決算額(B)	予算比(B-A)	備 考
市社協補助金	50,000	50,000	0	横浜市地区社協活動費
区社協補助金	338,000	319,000	△ 19,000	地域福祉活動団体等助成金、ほっこり活動助成金
連合より助成金	100,000	100,000	0	連合自治会より
区社協分担金	350,000	348,390	△ 1,610	単位自治会より(70円×4977戸)
賛助金	1,000,000	930,650	△ 69,350	個人:759,650円 団体:171,000円
福祉事業売上	100,000	110,500	10,500	模擬店売上げ(秋まつり、社協感謝デー)
雑収入	20,000	21,316	1,316	お祝い、預金利息
当期収入合計	1,958,000	1,879,856	△ 78,144	
前年度繰越金	3,119,081	3,119,081		
収入の部 合計	5,077,081	4,998,937	△ 78,144	

支出の部

(単位:円)

科 目		予算額(A)	決算額(B)	予算比(B-A)	備 考
事務関係費	消耗品費	100,000	72,360	△ 27,640	事務用品、賛助金封筒、コピー、郵送代ほか
	備品購入費	100,000	21,428	△ 78,572	台車購入
	事務所使用料	100,000	100,000	0	連合会館使用料
	広報活動費	200,000	212,365	12,365	社協だより印刷代、編集支援料
	会議費	200,000	159,591	△ 40,409	連合印刷機使用料、総会懇親会費用等
	研修・活動費	20,000	15,225	△ 4,775	地区社協分科会・きらつとあさひ等交通費
	渉外費	50,000	57,000	7,000	区社協会費、地域の行事お祝い
	雑費	10,000	0	△ 10,000	
	事務関係費計	780,000	637,969	△ 142,031	
事業費	社協感謝デー	150,000	50,227	△ 99,773	販売品仕入れ、保険料他
	ふれあいフェスティバル	10,000	0	△ 10,000	
	見守り活動	200,000	52,750	△ 147,250	見守り活動助成金
	多世代交流	200,000	184,007	△ 15,993	みんなあつまれ、ふれあい花壇等
	子育て・子育て支援	200,000	42,350	△ 157,650	スタンプラリー
	生活支援	40,000	35,880	△ 4,120	生活支援
	学習及び研修会	30,000	0	△ 30,000	
事業費 計		830,000	365,214	△ 464,786	
福祉団体助成金		560,000	691,000	131,000	17団体へ助成
なんでも相談電話料		80,000	41,183	△ 38,817	
区社協分担金		350,000	348,390	△ 1,610	収入の部 区社協分担金 参照
予備費		2,477,081	86,069	△ 2,391,012	秋まつり模擬店仕入れ
当期支出合計		5,077,081	2,189,825		
次期繰越金		0	2,829,112		
支出の部 合計		5,077,081	4,998,937	△ 78,144	

Ⅱ. 特別会計

収入の部 (単位:円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	予算比(B-A)	備 考
一般会計繰入	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
預金利息	130	5409	5,279	
前年度繰越金	2,107,014	2,107,014	0	
合 計	2,107,144	2,112,423	5,279	

支出の部 (単位:円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	予算比(B-A)	備 考
什器備品購入等	200,000	172,700	-△ 27,300	「わかばの広場」時計設置費
次年度繰越金	1,907,144	1,939,723	32,579	
合 計	2,107,144	2,112,423	5,279	

スルガ銀行(定期)	1,891,399
スルガ銀行(普通)	48,324
計	1,939,723

什器・備品一覧

品 名	数量	購入年度	保管場所	備考
倉庫	1	2020	3-2棟ビロティ	
電話	1	2015以前	ケアプラザ(なんでも相談)	
パソコン	1	2021	連合会館事務室	
音響機器	1式	2007	VOSC 2階	
ビデオカメラ	1	2015以前	連合会館事務室	
ワンタッチテント、重り	1	2020	倉庫	
ポッチャー式(コート付)	1	2021	倉庫	
缶バッチマシーン	1式	2022	倉庫	
ガーデンベンチ	2	2023	遊水地周辺に設置	
屋外用電波掛時計	1	2025	わかばの広場に設置	4MY611-B19
台車	1	2025	倉庫	NF-301

若葉台築社会福祉協議会

会長 太田 正廣 様

監査報告書

会則 第10条5項 ならびに 第14条に基づき、2024年4月1日より2025年3月31日までの業務が適正である事を確認いたしました。

又、収支報告書の会計全般について、関係帳簿・証票等の監査結果、適正である事を確認いたしました。

2025年4月*日

監事 _____ 印

監事 _____ 印

2026年度 収支予算(案)

期間(自:2026年4月1日～至:2027年3月31日)

I. 一般会計

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	前年度決算額	備 考
市社協補助金	50,000	50,000	横浜市地区社協活動費
区社協補助金	319,000	319,000	地域福祉活動団体等助成金、ほっこり活動助成金
連合より助成金	100,000	100,000	連合自治会より
区社協分担金	348,000	348,390	
賛助金	930,000	930,650	
福祉事業売上	100,000	110,500	社協感謝デー等収益
雑収入	20,000	21,316	お祝い金、預金利息等
前年度繰越金	2,829,112	3,119,081	
収入合計	4,696,112	4,998,937	

支出の部

(単位:円)

科 目	予算額	前年度決算額	備 考
事務関係費	消耗品費	100,000	72,360 事務用品、封筒他
	備品購入費	100,000	21,428
	事務所使用料	100,000	100,000 連合会館使用料
	広報活動費	200,000	212,365 社協だより印刷代、HP関連費等
	会議費	200,000	159,591 連合印刷機使用料、総会懇親会費等
	研修・活動費	30,000	15,225 研修費、研修参加交通費他
	渉外費	60,000	57,000 区社協会費、行事お祝い等
	雑費	10,000	0
	事務関係費 計	800,000	637,989
事業費	社協イベント	150,000	50,227 社協感謝デー等
	ふれあいフェスティバル	10,000	0
	見守り活動	200,000	52,750 見守り活動助成金
	多世代交流	200,000	184,007 みんなあつまれ、ふれあい花壇等
	子育て・育ち支援	100,000	42,350 スタンプラリー費用
	生活支援	0	35,880 2025年度で終了
	学習及び研修会等	30,000	0
事業費 計		690,000	365,214
福祉団体助成金		700,000	691,000
なんでも相談電話料		50,000	41,183
区社協分担金		350,000	348,390
事業費積立金繰入		500,000	0
予備費		1,606,112	88,089
支出計		4,696,112	2,169,925
次期繰越		-	2,829,112
支出合計		4,696,112	4,998,937